



日本平が紡ぐ悠久の歴史文化回廊

ストーリーの概要

四周眺望の地、日本平。

世界文化遺産の富士山を仰ぎ見る一方、眼下にはその構成資産となる三保松原など、古今名だたる景勝地を視界に収める歴史文化資産の展望回廊である。

日本平は、徳川家康ゆかりの久能山東照宮を始めとする歴史文化資産の集積地でもある。その歴史は神話の時代に遡り、悠久の歴史の中でその眺望は人々を引き付けてきた。

眺望に魅せられた古今の文化が日本平で受け継がれている。



トピック

日本平、名所となる



「日本観光地百選」記念碑
昭和 25 年 (1950) 毎日新聞
主催の日本観光地百選にて
平原の部 1 位に選出された
際の記念碑

- 「日本平」は、標高約 300m の独立丘陵「有度山」^{うどやま}の山頂及び一帯の呼び名である。
- その名が世に知られるきっかけは、明治から昭和にかけて活躍したジャーナリスト・徳富蘇峰^{とくとみ そほう}にある。蘇峰は、この地を訪れ、その眺望を絶賛した。
- 蘇峰が発表した紀行文を契機に、「日本平」は富士山眺望の名所として、全国に名を知られるようになった。

眺望・景観の名勝地



日本平山頂「日本平夢テラス」と眺望

- 日本平の特質は、四周の眺望にある。仰ぎ見る富士山、眼下の清水港・三保松原、駿河湾越しの伊豆半島はもとより、遙かに南アルプス、御前崎も見渡す。
- 松原越しの富士山の眺望を誇る三保松原、浮世絵に描かれた薩埵峠、名園を持つ清見寺等、日本平に比肩する景勝を誇る文化財も多い。
- 様々な文化財が眺望できることも日本平の特長の一つ。

悠久の歴史と眺望



久能山東照宮博物館
家康と歴代将軍の品々を伝える
料(社殿共通): 高校生以上 800 円
小中学生 300 円

- 日本平の名は、日本武尊^{やまとたけるのみこと}の伝承に由来するといわれ、その眺望は、古くから人々を引きつけてきた。
- 駿河に侵攻した武田信玄は、日本平の南にあった「久能寺」を山裾に移し、駿河湾を望む水軍の城「久能城」を築く。
- 久能城は、徳川家康の薨去後、「久能山東照宮」となり、家康や歴代将軍ゆかりの品々を今に伝える。

人々を魅了した眺望



高山樗牛が愛した龍華寺からの眺め
時: 8:30~16:30
料: 大人 400 円、中学生以下 200 円

- 山裾からの眺めも人々を引きつけた。
- 江戸時代の画家・司馬江漢^{しば こうかん}の作「駿河湾富士遠望図」は、山裾に移された「久能寺」付近(現在の「鉄舟寺」^{てっしゅうじ})からの眺めとされる。
- その南にある龍華寺^{りゅうげじ}からの眺望は、明治時代の文豪、高山樗牛^{たかやまぢゅう}が愛した。
- 北原白秋は、日本平付近の茶畑に着想を得て「ちゃつきりぶし」を作詞した。

日本平と眺望を巡る構成資産

- 日本平とその周辺に所在する「眺望」をキーワードに持つ、15 件の文化財が構成資産

構成資産 1 ～天下の絶景～

- 日本平は、静岡県ほぼ中央に位置する標高約 300mの独立丘陵・^{うどやま}有度山の山頂とその一帯の呼び名である
- 日本平の名を世に知らしめた一人が、大正時代にこの地を訪れたジャーナリスト・^{とくとみそほう}徳富蘇峰である
- 蘇峰は、富士山の周辺を巡る紀行文の中で、日本平からの眺めを「実に天下第一」と評した



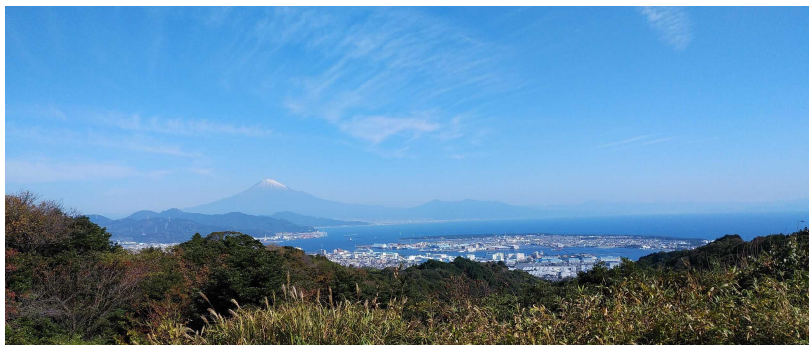
吟望台



望嶽台

蘇峰が名付けた展望地点

- 蘇峰は、展望に優れた4ヶ所を「望嶽台」、「超然台」、「鍾秀台」、「吟望台」と名付けた
- 吟望台は、日本平夢テラスの展望回廊からアプローチが可能
- ※超然台と鍾秀台は、現在立ち入り禁止となっています



吟望台からの眺め

名勝日本平

- 蘇峰の紹介を機に、日本平は全国に知られ、昭和 25 年(1950)には、日本観光地百選の平原の部で第1位に選ばれた
- 昭和 34 年(1959)には、風致景観の優れた展望地として、国の名勝に文化財指定された
- 昭和 55 年(1980)の日本観光地百選コンクールでも第1位となる

《国指定名勝》

①日本平

静岡市清水区草薙

- 四周を眺望する景勝地
- 山頂の日本平夢テラスと展望回廊からは、360°の雄大な景色を望む



日本平夢テラス



夢テラス内部の展示

日本平夢テラス

- 1階では、日本平の歴史や、地形などを学ぶことができる
 - 2階では、景色を眺めながら、静岡県産のお茶を楽しむこともできる
- 時:日～金 9:00～17:00 (土～21:00)
料:無料
休:毎月第2火曜日(休日の場合は翌平日)
年末(12/26～12/31)

構成資産 2 ～眺望を誇る景勝地～

- 日本平からは、様々な文化財も視界におさめることができる
- その中には、それ自体も優れた眺望や景勝を誇る文化財等が含まれる
- 日本平は、名だたる景勝地を望む展望回廊であり、訪れた人々を景勝地巡りに誘う起点である



みほのまつばら

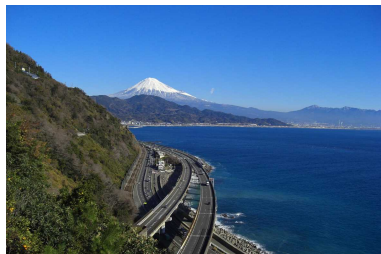
②三保松原 静岡市清水区三保

《国指定名勝》

- 世界文化遺産「富士山」の構成資産の一つ
- 砂嘴に寄る波と松越しの富士山は、日本を代表する絶景



静岡市三保松原文化創造センター「みほしろべ」
三保松原の価値や魅力を知ることができる。
時:9:00～16:30(年中無休) 料:無料



さつたとうげ

③薩埵峠 静岡市清水区由比西倉澤

《市指定名勝》

- 万葉の時代から知られた街道の難所を安全に越えるため 17 世紀に峠を越えるルートが整備された
- 安藤広重(歌川広重)の浮世絵そのままの景色が望める



清見寺総門

ちょうせんつうしん し いせき おきつせいけんじけいだい

④朝鮮通信使遺跡(興津清見寺境内)

《国指定史跡》

静岡市清水区興津清見寺町

- 徳川家康ゆかりの古刹・清見寺は、徳川将軍の代替わりごとに派遣された朝鮮通信使の休息場所であった
- 優れた景観は、江戸時代に訪れた朝鮮通信使から、「東海(日本)の名区(名所)」と讃えられた



せいけんじていえん

⑤清見寺庭園 静岡市清水区興津清見寺町

《国指定名勝》

- 江戸時代初期の作庭と伝えられ、朝鮮通信使も絶賛した名園

巨龍山清見興国禅寺(清見寺)

時:8:30～16:30(受付～16:00)

料:大人 300 円、中高生 200 円、小学生 100 円



清水港テルファー《国登録有形文化財》
集荷した木材を積み込む鉄道施設

しみずこう

⑥清水港 静岡市清水区入船町ほか

- マグロの水揚げ量日本一を誇り、古くは江尻湊と呼ばれた海上交通の要所



港周辺では、
海の幸も楽しめる



清水港からの眺望

構成資産3～悠久の歴史と眺望・北麓の古墳～

- 「日本平」の名は、日本武尊が四周を見渡したとの伝承に由来するという
- 日本武尊が活躍したとされる時代は、古墳時代にあたる。古墳は日本平の山裾にも数多く造られ、その一部が現存する



ひょうたんづかこふん

⑦瓢箪塚古墳 静岡市清水区谷田

- 6世紀初頭の築造といわれる墳長約50mの前方後円墳



周辺には、7世紀頃の古墳も残る
左:谷田宮の後公園、右:静岡県立美術館裏

構成資産4～悠久の歴史と眺望・久能山～

- 戦国武将も、この地の眺望に注目した。駿河に侵攻した武田信玄は、この地にあった久能寺を麓に移し、水軍の城・久能城を築く
- 久能城は、武田氏の駿河撤退後、徳川氏の城となる。元和2年(1616)に徳川家康が薨去すると城としての役割を終え、遺言により家康はこの地に葬られ、2代将軍秀忠により、久能山東照宮が創建された



くのうざん

⑧久能山 静岡市駿河区根古屋

《国指定史跡》

- 東照宮建立以前の久能山には、武田信玄が築いた久能城があった
- それ以前は、推古天皇の代に開かれたという伝承を持つ久能寺があった



勘介(助)井戸:武田信玄に仕えた山本勘助が掘ったと伝えられる



くのうざんとうしょうぐうほんでん いし ま はいでん

⑨久能山東照宮本殿・石の間・拝殿

静岡市駿河区根古屋

《国宝》

- 東照大権現の神号を朝廷から贈られた家康のため、2代将軍秀忠により造営された総漆塗り、極彩色の社殿



- 唐門を始め13棟は国の重要文化財

久能山東照宮

時:9:00～17:00(年中無休)

料(博物館共通):高校生以上 800円

小中学生 300円



とくがわいえやすかんけいしりょう

⑩徳川家康関係資料73種一括

静岡市駿河区根古屋

《国重要文化財》

- 徳川家康の奉納品として東照宮に伝来する文書と遺品類
- このほか家康が着用した具足類、2代将軍秀忠が奉納した太刀・銘真恒(国宝)を始めとする歴代将軍が奉納した太刀等、徳川家ゆかりの多数の国・県指定文化財が伝わる

【写真:久能山東照宮提供】

構成資産 5 ～東麓の眺望～

- 武田信玄により、麓に移された久能寺は、明治時代に山岡鉄舟が再興し、名を鉄舟寺と改めた
- 江戸時代の絵師・司馬江漢は、現在の鉄舟寺付近からの富士の眺めを好んだと言われ、その眺望を作品に残している
- 鉄舟寺の南にある龍華寺も優れた眺望を持つ。その眺めは、明治の文豪・高山樗牛に愛された



龍華寺と富士山
庭園は市指定名勝



境内にある
高山樗牛の銅像



⑪木造文殊菩薩坐像

静岡県清水区村松

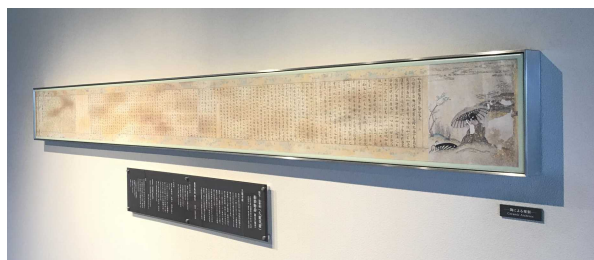
◀◀県指定有形文化財▶▶

- 鉄舟寺に伝来する木造文殊菩薩坐像(通常非公開)は、12世紀後半に遡る優品
- 鉄舟寺はもとは久能寺といい、武田信玄の駿河侵攻により麓に降ろされた



鉄舟寺越しの眺望

※鉄舟寺は現在、拝観できません



日本平夢テラス1階での「法華経(久能寺経)」の紹介

⑫法華経(久能寺経)

◀◀国宝▶▶

- 平安時代末期の華麗な装飾経(鉄舟寺所有)
- 実物は東京国立博物館に寄託されているが、日本平山頂の日本平夢テラスでその内容が紹介されている



⑬龍華寺のソテツ

◀◀国指定天然記念物▶▶

- 樹齢 1,100 年と推定される大ソテツ

観富山龍華寺

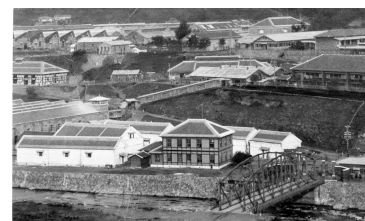
時:8:30~16:30(年中無休)

料:大人 400 円、中学生以下 200 円、未就学児無料

- 日本平から眺望できる「富士山」
- 近代化を迎えた明治時代の山麓のまちに、新たな産業が進出した
- その物語は、しずおか遺産「富士山の清流が織り成した産業革命」にて紹介

【しずおか遺産「富士山の清流が織り成した産業革命」の概要】

- 富士山麓における水を利用した産業を物語る小山町と富士宮市の文化財 13 件を紹介するストーリー



紡績工場が進出した当時の小山町

構成資産 6 ～お茶と日本平～

- 江戸時代からの茶どころ静岡
- 「ちゃっきりぶし」を作詞した北原白秋は、日本平付近の茶畑を見て、鋏刈りによる音を歌詞に取り入れた
- 日本のお茶の主力品種「やぶきた」は明治時代に日本平の北麓で発見された



県指定天然記念物
「茶樹(やぶきた種母樹)」



う ど きゅうりょう ちゃばたけけいかん
⑭有度丘陵の茶畑景観

にほんだいら ちゃ
⑮日本平のお茶



- 有度山では江戸時代後半頃から、緩斜面を利用して茶畑が開かれた
- 日本平夢テラス2階では、景色を眺めながら静岡県産のお茶を楽しむこともできる

集う文化

- 日本平の眺望は、悠久の時の中で多くの人を引きつけてきた
- 現在は、多数の文化財に加え、美術館や舞台芸術公園等、様々な文化施設が集う「文化ゾーン」となっている



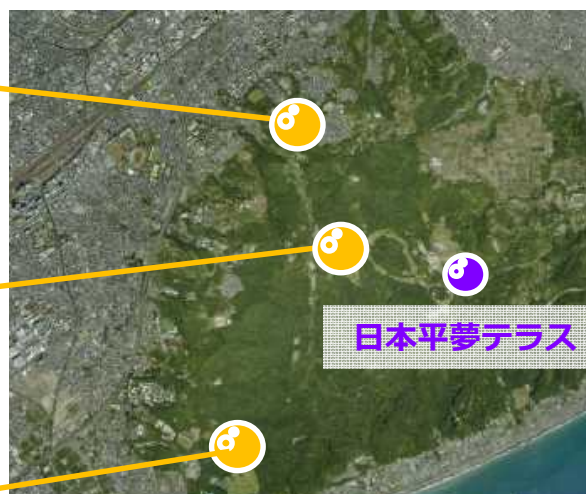
静岡県立美術館



静岡県舞台芸術公園



ふじのくに地球環境史ミュージアム



「日本平が紡ぐ悠久の歴史文化回廊」のストーリー

○名勝日本平

静岡県には、各地に変化に富んだ地形と豊かな自然、陸海の道を行く人々の交流に育まれた有形・無形の多様な文化財が残されている。県内には、歴史文化資源のホットスポットと言える文化財の集積地が幾つか見られるが、日本平もその一つである。

景勝地として知られる日本平は、静岡県のほぼ中央に位置する標高約300mの独立丘陵「有度山」の山頂及び一帯の呼び名である。

日本平の特質は、四周の眺望にある。明治時代から昭和にかけて活躍したジャーナリスト徳富蘇峰は、大正時代にこの地を訪れ、その眺望を絶賛した。

徳富蘇峰による紀行文の新聞掲載を機に、日本平は観富の名所として全国に知られるようになり、昭和25年(1950年)には観光地百選の平原部第1位、昭和55年(1980年)の日本観光地百選コンクールでも第1位となった。

昭和34年(1959年)には、風致景観の優れた展望地点であることから、国の名勝に指定された。

○歴史と文化の展望回廊

日本平からの眺めでまず目を引くのは、北東に聳える富士山と眼下の三保松原、清水港であろう。三保松原越しには、駿河湾や伊豆半島が望め、目を西に転じれば静岡のまちなみと南アルプスの山々、南西方向には、御前崎までを展望できる。

視界に入る歴史文化の所産は枚挙にいとまがないが、優れた眺望や景観を誇る名勝地・景勝地がその中に多く含まれることは、日本平の眺望の特徴である。

富士山、三保松原は世界文化遺産の構成資産であるとともに、風致景観の優れた国指定の名勝である。また、ユネスコ世界ジオパークに認定されている伊豆半島の南伊豆町から西伊豆町にかけての海岸は、地質的多様性と変化に富んだ地形が特徴的な名勝地でもある。駿河湾奥の海岸沿いに延びる深緑の一筋は、千本松原である。沼津市千本浜海岸は、穏やかな気候と優れた景観から、明治時代になると政財界の要人の別荘地となった。

富士山の手前には、絶景が浮世絵の題材となった薩埵峠があり、その左手には清見寺の伽藍を望むことができる。清見寺は、江戸時代、朝鮮通信使や琉球使の接待が行われた。朝鮮通信使は徳川家康の外交政策により実現した日韓の友好交流である。清見寺を訪れた朝鮮通信使は、住職と漢詩により文化的な交流を行い、庭園を含めた周辺景観や清見寺からの眺望は、詩を彩る素材であった。

日本平は、古今名だたる景勝地を望む展望回廊である。

なお、日本平の景観は、山腹に広がる茶畑がアクセントとなっている。静岡は、江戸時代からの茶所であったが、明治時代に茶が重要な輸出品となると、生産に一層の力が入れられた。静岡の街中に集積された茶は、清水港から出荷され、輸送力拡大のため静岡―清水間に鉄道が敷設された。

沿線に開設された遊園地のPRソングが昭和2年(1927年)につくられた「ちゃつきりぶし」である。作詞をした北原白秋は、日本平付近の茶畑を見て、鉄刈による音を歌詞に取り入れた。日本平の景観に由来する歌曲である。

○悠久の歴史

「日本平」の名が広く知られるようになったのは近代以降であるが、その眺望は古くから様々な人々を引きつけてきた。

「日本平」の名の由来は、神話の時代に遡る。『日本書紀』には、日本武尊が東征の折、駿河の地で火攻にあうことが記される。賊平定後、山頂から四方を眺めたことが日本平の名の由来と言われる。日本武尊が活躍したとされる時代は、古墳時代にあたる。古墳は日本平の麓付近にも作られた。多くは後世の開発で失われたが、6世紀初頭に築かれた前方後円墳ひょうたんづかの瓢箪塚古墳は、有度山に現存する最古の古墳である。県立美術館周辺や付近の公園にも7世紀頃の古墳が数基残る。古墳を築く際は、視覚的な効果が考慮されるという。見る、見られる場所として日本平が選ばれたのである。

○王朝文化と戦国武将

日本平の眺望は、戦国武将も注目した。駿河に侵攻した武田氏は、現在、久能山東照宮が所在する地に、水軍の城、久能城を築いた。駿河湾を見渡せることがこの地が選ばれた理由である。

久能城の築城に当たり武田氏は、この地にあった久能寺を東の山裾に移した。久能寺は、明治16年(1883年)山岡鉄舟が再興したことで寺名が鉄舟寺と改められた。

鉄舟寺には、鎌倉時代の木造文殊菩薩坐像等、様々な寺宝が伝わるが、特筆すべきは、「久能寺経」である。久能寺経は、各巻の巻末に書きとめられた名前から、鳥羽法皇の皇后・待賢門院たいげんもんいんを中心とする宮廷の人々の書写といわれる。見返しの大和絵、金銀の切箔は、平安王朝末期の貴族の美意識を今に伝える華麗な装飾経である。

鉄舟寺からは、右手に三保半島、左手に富士山を望む。江戸時代に司馬江漢しばこうかんが描いた「駿河湾富士遠望図」は久能寺(現在の鉄舟寺)からの眺望とされる。

また、鉄舟寺の南にあり、大ソテツのある龍華寺りゅうげじからの眺望は、明治の文豪高山樗牛たかやまちよぎゅうに愛された。共に優れた眺望を持つ寺院である。

久能城は、武田氏撤退後は、徳川氏の城となり、元和2年(1616年)に徳川家康が薨去すると城としての役割を終え、遺言により家康はこの地に葬られた。翌年、2代将軍秀忠により、家康を祀る久能山東照宮が創建された。久能山東照宮には、家康の遺品を始め、歴代将軍が奉納した品々が伝来する。

○歴史を紡ぐ

日本平の眺望は、悠久の時の中で多くの人を引きつけ、歴史を刻んできた。眺望は、日本平とその周辺に文化財が集積する原動力でもあった。現在は、美術館や舞台芸術公園などの文化施設も集う。

静岡県では、2023年「東アジア文化都市」が開催され、文化を通して静岡県から東アジアを眺望するとともに、日本平で展開する様々な文化が海外からも注目されるなど、日本平の歴史にも新たなレガシーが刻まれた。

日本平と山麓の文化財、様々な文化施設を巡る旅路は、日本平の眺望に魅せられた古今の文化に触れる旅路である。

日本平で、「歴史文化の宝庫しずおか」を体感してみましょう。

しずおか遺産

「日本平が紡ぐ悠久の歴史文化回廊」

代表連絡先

担当 静岡県スポーツ・文化観光部
文化局文化財課

電話 054-221-3183

E-mail bunkazai@pref.shizuoka.lg.jp

住所 〒420-8601

静岡県静岡市葵区迫手町9-6